

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人かすがい市民文化財団	
施 設 名	春日井市民会館	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	6,170	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	1,902	(千円)
普 及 啓 発 事 業	4,268	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	若手音楽家支援事業	2020年11月1日 ほか ※	出演：Trombone Ensemble Gaio 曲目：「Tokyo Triptych」「ラッサス トロンボーン」ほか	目標値	700
		文化フォーラム春日井 ほか		実績値	233 ※
2	Osaka Shion Wind Orchestra 吹奏楽クリニック	2020年5月23日(中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	150
		春日井市民会館		実績値	0 ※
3	演劇×自分史 カスガイ創造プロジェクト	2021年2月20日、21日(中止) ※	ワークショップは開催。 講師：有門正太郎 ① 2020年11月28日 会場：文化フォーラム春日井 ② 2020年11月29日 会場：レディヤン春日井 ③ 2021年2月5日～7日 会場：文化フォーラム春日井 公演は新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	入場者 200 ・ 参加者 25
		春日井市民会館		実績値	入場者 0 ・ 参加者 29 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	昼コン&夜コン&親子のためのはじめての音楽会	2020年9月11日 ほか ※	出演：サラマンカホール・レジデント・カルテット 曲目：リベルタンゴ、弦楽四重奏第78番「日の出」より第1楽章（ハイドン） ほか	目標値	2,500
		文化フォーラム春日井		実績値	1,719 ※
2	かすがい どこでも アートドア	2020年10月4日 ほか ※	出演：Shiki's Friends	目標値	1,000
		水辺老人憩いの家		実績値	1,403 ※
3	かすがい文化フェスティバル	2020年8月10日 ほか ※	スタッフ：かすがい市民文化財団職員	目標値	300（※ 実演芸術分野参加者のみ）
		春日井市民会館		実績値	74 ※
4	にんぎょひめ	2020年8月8日 ※	出演：上ノ空はなび、野崎夏世、丸本すぱじろう ほか スタッフ：川上大二郎（舞台監督）丸山武彦（照明）、高塩顕（音響）、西川千明（衣装）	目標値	700
		春日井市東部市民センター		実績値	277 ※
5	情報誌づくりを通じた、実演芸術の普及啓発	2020年4月1日～2021年3月31日 ※	スタッフ：かすがい市民文化財団職員 出演：幸田律、ほか	目標値	参加者数 120
		春日井市民会館 ほか		実績値	47 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>人材養成事業、普及啓発事業共に、新型コロナウイルス感染拡大の大きな影響を受けた。特に人材養成事業の「演劇×自分史 カスガイ創造プロジェクト」は昨年度本番2日前に新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となり、今年度に延期されたものだったが、再びの新型コロナウイルス感染拡大により中止となった。令和2年度の大きなプロジェクトと位置付け、リベンジの想いが強かっただけに残念である。</p> <p>普及啓発事業は1年を通した活動の性質のものが多く、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けながらも、可能な限り延期をするなどして、なんとか開催できたものもあった。「かすがいどこでもアート・ドア」は、重症化の危険がある高齢者が集まる老人会、そして幼稚園・保育園の関係者以外は園に入れないなど、直前で状況が変わり中止せざるを得ないものも次々と発生し、担当者は日程の調整に追われ、当初の予定どおりとはいかなかった。「昼コン&夜コン」の上半期は、映像配信に切り替える工夫を行った。</p> <p>「にんぎょひめ」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響下で初のホール公演となったため、考えうる限りの感染防止対策を行い、開催することができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>文化的意義について：</p> <p>助成いただいた中の事業で、特に「若手音楽家支援事業」は、春日井市ゆかりの若手音楽家たちを、アウトリーチ等に派遣して演奏活動を支援する取り組みである。それぞれが工夫を凝らした単独でのコンサートを開催し2期生3組の合同コンサートでは、互いに刺激を受け合う内容となり、彼らの成長につながっている。また「情報誌づくりを通じた、実演芸術の普及啓発」は、地元ゆかりの人物だけではなく、著名人も多く登場し、春日井市の文化芸術の発信として広く認知されている。今回100号を迎え、更にリニューアルし、高い評価を得た。文化の水準を押し上げている。</p> <p>社会的意義について：</p> <p>「昼コン&夜コン」は17年継続しており、交流アトリウムという、誰でも気軽に立ち寄れる空間には、乳幼児連れの親子から、施設内にある図書館帰りの学生、年配の方まで幅広い客層の様々な人々が訪れる。近隣の老人介護施設から車椅子で来館される利用者もいて、バリアフリーで楽しめるコンサートとして認知されている。「親子のためのはじめての音楽会」も乳幼児がいるファミリー層のニーズに応えたものである。「演劇×自分史」は学生から80代の高齢者までが一緒になって創り上げる演劇で、「かすがい文化フェスティバル」も併せて世代間交流ができる内容となっている。「にんぎょひめ」は当財団として初めて乳幼児から鑑賞可能な演劇公演となった。特に親子で鑑賞できる催しが少ない春日井市東部地区での開催は、高齢化が進むニュータウンの課題解決の一助となり得るものとなった。「かすがいどこでもアート・ドア」は、劇場に足を運ぶことが難しい場所へ芸術を届けるという取り組みは、非常に社会的意義が大きく、今後も引き続き継続してゆく。</p> <p>経済的意義について：</p> <p>多くの活動が新型コロナウイルス感染防止対策のため中止になった。そのような中、「昼コン&夜コン」への市民の寄付金が過去最高額となった。“無料”のコンサートへの寄付文化が根付き、更に芸術文化への支援の気持ちが高まっていることを感じた。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

人材養成事業では、申請した3つの事業のうち、2つが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。それにより公演回数等は当初の目標値には全く及ばなかったが、唯一実施することができた「若手音楽家支援事業」では、若手音楽家登録者数等で成果を残すことができた。また第3期登録アーティストには多くの募集が寄せられ、認知度が向上していることが伺える。



←「若手音楽家支援事業」
2期生合同コンサートの様子

普及啓発事業でも、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた。特にアウトリーチについては、受け入れ先である幼稚園・保育園などが、感染防止対策のため外部の人を入れることができない状況になり、ことごとく中止となってしまった。しかしながら、それ以外で開催ができたところでは、ほぼ全てが「満足」というアンケート結果をいただいております、確実な成果を残せたと言える。

また「昼コン&夜コン」については、開催できなかったものは映像に切り替え、出演者たちに映像作成をしていただき、その映像をインターネット配信や施設内で再生し、多くの方に聴いていただける努力を行った。特筆すべきは、寄付金の多さである。昨年度は約20万円であったが、今回、前年度より半分しか開催できなかったにもかかわらず、約28万円と、前年度より8万円も増えた。目標値が14万円であったため、2倍である。多くの市民の皆さんが、生演奏を聴ける喜びと、窮状に苦しむ音楽家たちへのエールを送ってくださったものとする。コロナ禍において、他の多くのイベントが中止になったことも影響してか、メディア掲載数も増えることとなった。



「夜コン」9月開催の様子→
しっかりと感染防止対策を講じ
開催した。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

人材養成事業、普及啓発事業共に新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、ほとんどが中止または延期を余儀なくされたため、当初の計画通りには全く進まなかった。

特に人材養成事業の「演劇×自分史」は、市民参加型公演で、ワークショップを積み重ね、発表公演を行う、というものであったが、参加者が集まること自体に感染リスクが高まるとして、全員が一堂に会することすらできなかった。結果、映像配信の作品制作に切り替えたが、この事業に対し多くの事業費を計上していたため、大きな変更が生じた。

また、普及啓発事業の「かすがいどこでもアート・ドア」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を甚大に受け、半数が中止となった。特に幼稚園・保育園、そして老人会などの多くは開催できなかった。

開催できたものについても延期が相次いだ。



←「かすがいどこでもアート・ドア」の様子

感染が比較的落ち着いた時期に開催した中学校演劇部へのアウトリーチは、生徒たちに多くの学びを残せたと感じる。



南城中学校演劇部へのアウトリーチの様子→

「昼コン&夜コン」についても、半分の上半期は中止となり、映像配信に切り替えた。



「にんぎょひめ」(8月公演)については、コロナ禍の中、久しぶりの舞台公演となった。その当時に考えうる限りの感染防止対策を講じ、また出演者にはPCR検査を受けていただくなど、様々な配慮した。来場者は前後左右を空けた席に座ってもらったが、子どもたちにはぬいぐるみを持ってきてもらい、隣に座ってもらう工夫をした。予定通りに公演を行うことができ、出演者にとっても半年以上ぶりとなる本番の舞台と、来場者のあたたかい拍手に感無量の様子だった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

「昼コン&夜コン」は、複合文化施設である文化フォーラム春日井のエントランス空間「交流アトリウム」で行うコンサートであるが、その大きな魅力が“音楽との偶然の出会い”である。しかし、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、不特定多数の方が毎回200人以上来場する無料のコンサートを開催するハードルは非常に高かったため、4-7月開催分については出演者に演奏動画を作成してもらい、館内やインターネットで配信した。9月以降は感染防止対策をしっかりと行い、多くの来場者が見込まれるコンサートについては場所を市民会館に移動したところ、300人を超える来場者があった。文化拠点を2つ指定管理している当財団としては、密を避けながら実演芸術を生で楽しめる機会を提供できる方法として、劇場・エントランス空間など、それぞれの場所の特性を生かし開催を前提とした創意工夫ができた。また、「親子のためのはじめての音楽会」は乳幼児を連れた親子が多く訪れることが予想できたため、密を避ける工夫として2回公演を行った。そのため、安心して音楽を楽しめる機会を提供できた。開催数が半減となったにも関わらず、寄付金は過去最高額の288,134円となり、多くの市民が音楽を渴望していたことが伺えた。

施設のエントランス空間で行われる予定だった「夜コン」を市民会館で行った様子。密を避け、鑑賞する機会を提供できた→



普段、文化施設に訪れることが少ない市民にリーチする「かすがいどこでもアート・ドア」は、コロナ禍で12カ所が中止となり、14カ所実施した。ステージからの距離をと

った状態での鑑賞だったため、鑑賞者の反応がつかみづらく、アーティストは戸惑っていたが、終了後にいただいた感想には熱烈な歓迎の言葉が書かれているものが多く、喜んでいただけた。

「若手音楽家支援事業」は、登録アーティストがワンコインコンサートを行うスタイルをベースとしているが、合同コンサートも行った。普段別々に活動している音楽家同士が協働で1つのコンサートをつくりあげる過程で、出演者同士の親交をはかるため、Zoomを用いた打ち合わせを行った。横のつながりをつくる良いきっかけとなり、互いに大きな刺激を受ける貴重な機会となった。コロナ禍で客席を半数近く減らしたが、公演日前に完売した。

「にんぎょひめ」を行った春日井市東部市民センターは、日本三大ニュータウンとして発展した高蔵寺ニュータウンの中にある文化拠点である。当財団の指定管理施設ではないが、東部地区での公演等の開催要望を市民から多く受け、当財団としても積極的に文化芸術を届ける拠点として市と連携し、事業を実施している。コロナ禍で親子向けの公演ということで、久しぶりの外出・舞台鑑賞になったという声も多く聞かれ、その場でしか体感できない「生の舞台の良さ」を提供することができた。

これらの事業に関わる芸術家と市民の距離を近づける媒体として、広報誌FORUM PRESSとWEB、SNSを活用している。広報誌はコロナ禍ということもあり、部数とページ数を調整したり、事業の紹介だけでなくコロナ禍の営みや、文化芸術の教育的側面などのコンテンツを作成した。また、WEBでのコンテンツ発信を行うため、コラムあれこれを新設した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

コロナ禍で人々が集えない中、当財団情報誌「FORUM PRESS」では、「おうちでも楽しく」と題し、さまざまな実演芸術を紹介するコーナーを作り、文化芸術の振興につとめた。具体的な内容を下記に記す。

① 古閑裕而コンサート「わがまち春日井」

愛知県独自の緊急事態宣言下、定員数 50%で行った「古閑裕而コンサート」について、広報誌やチラシなどでの紹介だけでなく、HP 上で古閑裕而作曲の「わがまち春日井」の歌を聴くことができたり、作曲された経緯などをリサーチし、当時の懐かしいチラシやコンサート風景と共に紹介するなどの告知を行った。このようにデジタルコンテンツとして残しておくことで、地域の文化芸術のアーカイブ作成に役立った。なお限定期間ではあったがコンサートは配信も行い、地域独自のコンサートを広く伝えることができた。



② キエフ・クラシック・バレエ 2020 白鳥の湖く全幕 >公演中止

公演中止になったバレエ公演について、地元のバレエ団と協力し、白鳥の湖について誌面で紹介すると共に、バレエ de ストレッチと題して、白鳥になるためのオリジナル動画を制作し、HP で紹介、館内でも映像上映した。実際に館内ではモニター前で白鳥のストレッチを行う人もおり、実演芸術の振興につながった。



③ 「特別対談 いま、芸術ができること」

2020 年 10 月発行の広報誌上で、市内中学校の校長先生および当財団プロデューサーとエデュケーションアドバイザー（元校長）による特別対談を掲載し、反響をいただいた。内容としては、子どもたちと未来のためにと題し、当財団で取り組んでいるアウトリーチ活動「かすがい どこでもアート・ドア」の有益性や、「みんなの美術部」の活動紹介などを行い、教育現場と劇場・文化施設をさらにつないでいくための方法などを話しあった。この広報誌については、校長会などでも紹介し、2020 年度はなかなか行えなかったが、今後のアウトリーチ活動の足跡を作ることができた。



(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

①「キックオフ・ミーティング」による事業改善の仕組み

当財団は事業に着手する前に、事業担当者、広報担当者、技術担当者、プロデューサー（芸術面の責任者）、マネジャー（運営面の責任者）が一堂に会する「キックオフ・ミーティング」を必ず開催している。

このミーティングにより、事業の目的を全員で改めて確認した上で、達成目標及び達成レベル、ターゲットを明確にしている。これにより、事業を個人の力量や熱意のみに依存せず、組織力を活かして継続的な取り組みとなるよう工夫している。

また、多方面からの意見を集約することで、事業担当だけではカバーできない課題を事業初期に顕在化させ、チームのベクトルを合わせる効果も高い。加えて、前回の反省や積み残した課題を共有し、PDCA サイクルを回す仕組みを多くの手間をかけることなく実現している。（ISO のデザインレビューの簡易版をイメージ）

このミーティングの協議内容は、管理職にも共有され、アウトカムやインパクトなど俯瞰的な視点から長期評価を行う上で役立っており、これを春日井市文化振興プランの進捗状況確認にも反映している。

②職員全員参加の「企画会議」による事業決定の仕組み

当財団の事業企画は、事業推進グループの職員やプロデューサーのみでなく、全職員が提案できる仕組みを導入している。職位・職務内容・経験年数に関わらず、高いアンテナと企画力、発想力、人脈、熱意があれば、誰でも企画提案が行え、職員全員参加の企画会議でプレゼンテーションできる。

この仕組みは、事業の決定プロセスが明確になることから、組織全体として事業への理解度が上がり、組織横断的な事業の取り組みや柔軟な人員配置が可能となる。

なお、事業の質を担保するため、企画を企画会議に提出する前にプロデューサーに事前相談し、アドバイスを受けることとしており、企画内容のブラッシュアップに繋がっている。

③安定的な財源確保と市民の支援

春日井市文化振興基本条例には、財団の責務が明文化されており、文化政策を体現する専門集団として位置づけられている。市補助金の減少もなく、近年は市から財団への事業移管による人員増や事業費増が認められ、安定的な財源が確保できている。

また、「若手音楽家支援事業」の事業立ち上げ時の原資 100 万円は、市民からの遺贈であり、寄附者の音楽への愛情を受け継ぐかたちで事業がスタートしており、課題への共感、解決策への賛同、財団への信頼により、個人からの寄附金が継続的にあり、今年度末の特定寄附金額は原資の 100 万円を超えた。

特に「昼コン&夜コン」は、新型コロナウイルスにより公演回数が半分程度となったが、事業に対する寄附金は、284,894 円で過去最高額となり、来場者 1 名にかかる市補助金（依存財源）は、111 円であり、目安としている 500 円/名を大きく下回り、継続的に良好な事業運営ができています。コロナ禍中で文化芸術の必要性が叫ばれる中、多くの市民に事業の公共性が認められたと感じられた。

